

お福はまよひまにけし

こよあまふまよひまにけし

こよあまふまよひまにけし

こよあまふまよひまにけし

こよあまふまよひまにけし

こよあまふまよひまにけし

こよあまふまよひまにけし

こよあまふまよひまにけし

こよあまふまよひまにけし

こよあまふまよひまにけし



うそを成すの事こそ多岐にわたるとも
いふ事さ自らをいふとわがしに在りしを
の涙と信じてしるすは深きもの
中昔の懐徳に類例ありしをた
懐きたるは之の成能を言ひたる
と新しき心づくにと餅の狂言
とありし事とありし事と
一物と剣と懐と懐とと
何れも十と十と何れも十と十と
保つてしるす事勿くし

九月二

史記

の

有漢史記

抄



須藤光暉書簡

三品蘭溪宛

本館文庫
文庫 14
C314





須藤光暉書簡

三品蘭溪宛

Faint handwritten text in a cursive style, likely a letter or document, written on a rectangular piece of paper pasted onto the main page.

本問文庫
文庫 14
C344

